

佐渡生きものの語り 作品集 2015



イラスト部門 グランプリ作品

佐渡生きものの語りについて

佐渡の空に再びトキが舞うようになってから8年が経過しました。

トキの野生復帰が始まった年に、朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会が設立しました。佐渡市とJAと農家と市民団体が手を組み、「トキが餌に困らないように」という合言葉で認証米制度がスタートしたのです。

減農薬、減化学肥料はもちろんのこと、この制度の特徴は生きものを育む農法にあります。田んぼからトキの餌である生きものが減った原因は、効率性ばかりを追求した米づくりにあったという反省から、生きものに配慮した4つの工夫を提案しています。そして、この効果を確かめるために、農家自らが年2回、田んぼの生きものの調査を行うことも決まりました。

小学生以来持つことのなかった網を持ち、田んぼの中で生きものを探す農家たち。これまでの農作業では見えなかったけれど、目を凝らしてみると田んぼにはいろいろな生きものがいることに気が付きました。



この取り組みを、この思いを、他の人たちにも伝えてもらいたいと「佐渡生きものの語り」の募集が始まりました。すると、農家だけではなく、佐渡を訪れた観光客や修学旅行の小学生、佐渡にボランティア活動や研究のために来た大学生など、多くの方が作品を寄せてくれるようになりました。

今回は川柳・短歌部門に177作品の応募がありました。認証米農家が生きものの調査結果を報告するチェックシート（生きものの調査野帳）に書き添えてくれたものが多くあります。イラスト部門は45作品、フォト部門は4作品の応募でした。

選考委員より、全作品から川柳・短歌部門10作品、イラスト部門4作品を選んでいただき、11月に開催されたJA佐渡ふれあいアツセ祭りで展示し、来場者から好きな作品に投票していただいた結果、川柳・短歌部門グランプリ、準グランプリ各1作品、佳作8作品、イラスト部門グランプリ、準グランプリ各1作品が決定しました。

朱鷺と暮らす島 生物多様性佐渡戦略 キャッチコピー

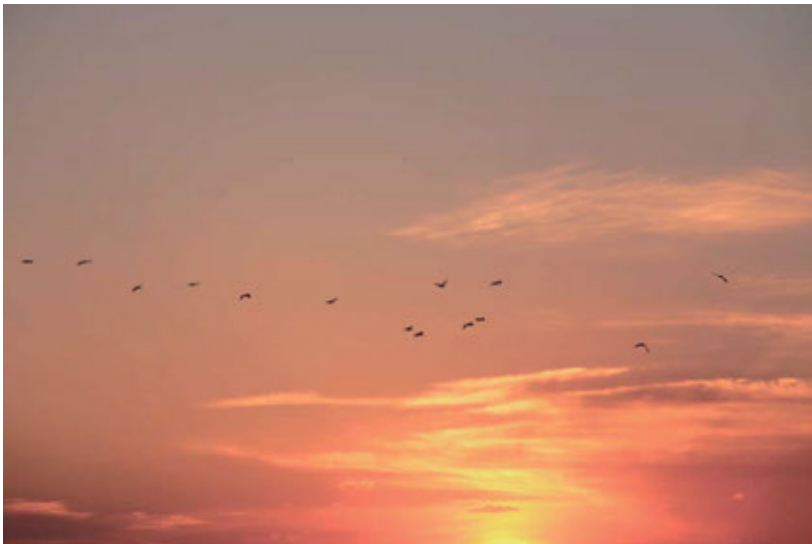
佐渡でふれあういのちのつながり
人とトキが暮らす島を孫の世代へ

みなさんは「生物多様性」という言葉を知っていますか？生物多様性とは「生きものたちの豊かな個性とつながり」のことです。

私たち人間は、地球という大きな生態系の一員であり、私たちの暮らしは、様々な生きものが関わり合い、得られる恵みによって支えられています。

佐渡の豊かな自然や文化を保全・再生し、佐渡で育まれた多くの生きものと私たちが共生する環境を後世に渡って継承していくために、佐渡市では、平成24年6月に「トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略」が創られました。

佐渡の生物多様性を「知る・守る・使う」ことで、自分たちの子供や孫の代まで繋いでいく取り組みです。



祖父の見た トキの飛ぶ空
僕も見 僕の孫にも
見せれるように

戸塚 邦洋
(東京都・大学生)

【選者より】

時代の流れと佐渡の懐かしい風景が
つながり、情景が浮かぶようです。
3代も4代にも渡って、伝えていく
壮大なドラマに感動です。時（トキ）
がたっても、トキの棲むこの素晴らし
い環境を残していきたいですね。



トキ米の
育ちいかがと

朱鷺が舞う

飯田 修
(佐渡市・農家)

【選者より】

自分の名前の付いたトキ米の成長を
朱鷺が気にしている視点が面白いで
す。

朱鷺のエサ場の田んぼに、数羽の朱
鷺が舞っている風景が浮かびます。
ここ最近、佐渡では見られる風景に
なってきたことが嬉しいですね。

イラスト部門 グランプリ作品



高木 香里

(東京都・大学生)

【選者より】

全ての生きものが1つ1つ楽しそうに細やかな思いと共に描かれており、見る人に幸せと生きものと自然が共存できる佐渡ヶ島を想像させる心のこもった作品だと思いました。

準グランプリ作品



山辺 詩音

新潟大学教育学部
附属新潟小学校

【選者より】

コメントの中に、「大事に、大事に」「いつまでも、いつまでも」と繰り返す表現があり、作者のトキに対する特別な想いが伝わってきます。佐渡島民全員がこの気持ちを共有できたら素晴らしいと思いました。

生きものも もちつもたれつ おらがイネ

稲田 嘉孝 (佐渡市)

孫たちと 生きもの調べ 楽しみて

昔なつかし 思いうかぶや

古片野 一夫 (佐渡市)

一面の 早苗の中に あまがえる

仲川 正則 (佐渡市)

踏まれても 全部は踏まぬ トキの足

斉藤 孝夫 (佐渡市)

目をこらし 田んぼの中を 見まわすと

ふだん見られぬ 生きものいっぱい

ペンネーム
たんぼのめがね (佐渡市)

いいおとな 虫をつかまえ 大さわざ

駒形 光義 (佐渡市)

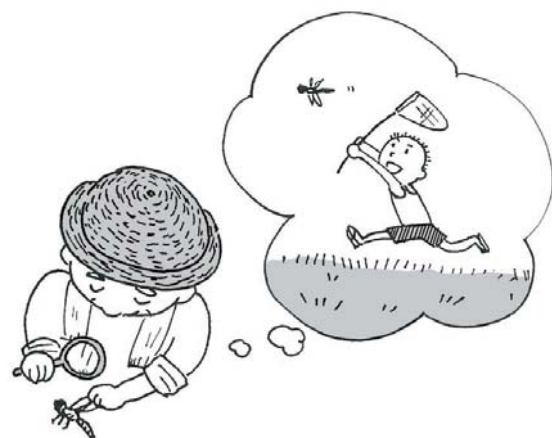
孫の手に 似たような歳頃 カエルの子

放してあげよと覚す ジジの声

小潟 加一郎 (佐渡市)

佐渡米は 大地の恵みと 多様性

臼杵 博道 (佐渡市)



川柳・短歌部門 応募作品

生きもの調査 みんなでやれば 楽しいな 計良 一馬

痛い目に あつて覚える 虫の名前 榎田 富雄

虫しらべ 本を見ながら 四苦八苦 榎田 富雄

家の田に トキが舞う日を 楽しみに 虫調査 本間 勝夫

真夏日に 暑さ忘れて 虫と戯むる 江口 誠治

いつごろに チェック出来るか トキの欄 茅原 吉三郎

生きものは 増えてますます トキの島 清水 正

知らぬまに バッタ追いかけ どろまみれ 坂田 金正

網を手に 生きもの追いし 島の初夏 江口 るみ子

カナヘビも 生きもの調べで 人気者 江口 るみ子

江の中を ちょっと覗いて見てみたら メダカがお遊戯していたヨ 江口 るみ子

出穂を 飛んで喜ぶ カモのむれ 津田 政明

草とりを 毎日している カモ夫婦 津田 政明

大空を飛ぶ トキを眺めて 幸を感じる 野田 敏一

「佐渡市生きもの調査の日」

佐渡市では、佐渡の生物多様性豊かな環境を市民一人ひとりが、理解するために、平成22年6月に「佐渡市生きもの調査の日」を宣言し、毎年6月第2日曜日と、8月第1日曜日に、全島で田んぼの生きもの調査を行っています。

農家だけでなく、子ども達や市民も参加し、佐渡の環境を支える「小さな命」に目を向ける取り組みです。



サドガエル 探す眼に 暑さ忘れる

菊池 稔裕

大雨で カエル喜ぶ たんぼの江

江口 豊朗

サドガエル? かと思ったら ツチガエル

ペンネーム
たんぼのめがね

サドガエル ひと目あなたに 会ってみたい

湖屋 慶子

アマガエル タモ手に追いし いと愉し

浅木 達夫

夏の朝 サギにおどろく カエル達

笠井 豊

暑い夏 トンボもカエルも ご苦労さん

計良 一馬

朝起きて かえるの声に 目がさめる

羽豆 忠雄

早いもの 生きもの調査 はや終わる

恩田 昭夫

生きものが いるかいるかと 駆け回る

恩田 昭夫

草刈に ジャンプジャンプの バッタたち

大澤 清二

畦端に 生きとし生ける もの多し

外内 孝子

生きものに 生きる力を もらふかな

外内 孝子

まだ居ると 目をこらし見る 株間かな

大岡 栄一

暑い中 ツバメは元気に 飛び回る

高本 清

ツバメの巣立ち 今年も無事 終了する

高本 清



「GIAHS 世界農業遺産」

後世に残すべき生物多様性を
保全している農業上の土地の使
い方や景観について、FAO(国
連食糧農業機関) 認定するもの
です。

佐渡市は、生きものを育む農
法や、各農村集落に継承されて
いる伝統芸能などが評価され、
平成23年に石川県能登地域と共
に日本で初めて認定されまし
た。



ときどきに トキみるときはあるけれど

トキみるときは トキ米刈るときのトキ

ペンネーム
百姓71

あぜ歩く ズボンに絡む 蜘蛛の網

本間 考直

頼むから 跨いでくれよ 俺の稲

本間 考直

危機せまる あたまひしめく 水溜り

本間 考直

生きものを 探してみるが かくれんぼ？

土屋 義章

朝6時 生きもの調査 楽しけり

土屋 甚健

おそはるの ねぼけまなこに うつるむし

伊藤 昭司

生きものと 共に生きたい 余生かな

村田 和雄

古希すぎて 歓喜あげる 調査かな

村田 和雄

調査より 紫陽花の花が 気にかかり

村田 和雄

調査終え そつと見上げる 棚田かな

村田 和雄

生きものと 余生を過ごす 米づくり

村田 和雄

道心に かえるまなこに 田もおどる

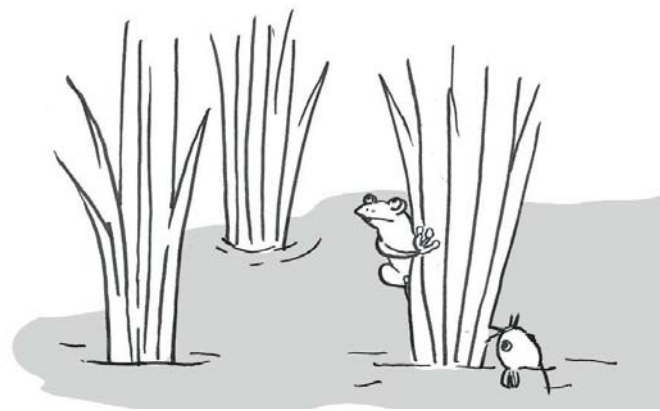
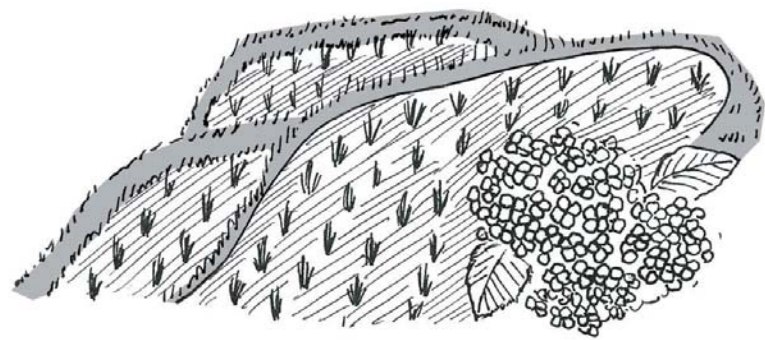
村田 和雄

子ドジョウ 網の中 跳ね回る

川上 守正

小雨降る 生きもの調査 イナゴ飛ぶ

浅木 達夫



行く先に 友ありしかな 初飛行

渡部 公正

年ごとに 殖える生きもの 楽しみに

鈴木 正徳

人を見て ゆっくり飛び立つ 巨大サギ

斉藤 孝夫

雪のように クモが糸を張り

斉藤 孝夫

やっと来た 梅雨明け宣言 蝶が舞う

斉藤 孝夫

年ごとに 殖える生きもの 楽しみに

鈴木 正徳

時、時、時 時を超えて トキが飛ぶ

高柳 康久

田廻りは クモの糸切り 胸いたむ

大岡 栄一

暑さには 稲は強くて 人弱い

駒形 光義

暑さに負けず 今日元気飛び廻る

生きものたち！

野田 政好

暑すぎて 生きものへタリ 人へタリ

鶴間 誠二

トキおるる 自慢の圃場に ガンバレと！

川上 澄子

夏バテが トキとの出会いで ふっとんだ

川上 澄子

あついの に クモはせっせと 糸をはる

石塚 浩二

汗をかき 生物調査 腰かがめ

渡部 義雄



「朱鷺と暮らす郷認証米」

佐渡では、農薬や化学肥料を
少なくし、環境に配慮した米作
りをしています。中でも、朱鷺
と暮らす郷認証米は、田んぼと
その周囲に生息する生きものの
環境を作り出す「生きものを育
む農法」により栽培されている
お米です。



生物多様性 その3



帰省した 孫の手を借り 生きもの探し

逸見 安正

孫の手を かりて田まわり 夏の朝

逸見 安正

トキ来る田を 夢見るが サギばかり

逸見 安正

白サギを 朱鷺と喜ぶ 観光客

三浦 宣昭

朱鷺色の 夕焼け空に 癒される

三浦 宣昭

朱鷺の群れ 向けるカメラに 羽ばたけり

三浦 宣昭

捕虫網 今は生きもの 調査用

外内 豊明

夢に見し 吾が田見守る 番し朱鷺

外内 豊明

季節など 言わない カエルがいる

榎田 富雄

田植えより 真面目な顔で 虫さがし

榎田 富雄

田の中は カエルとクモの かけっこだ

本間 武男

くもの糸 よけて歩くに ひとくろう

本間 武男

花や虫 夏日迷わず 季節くる

佐々木 勲

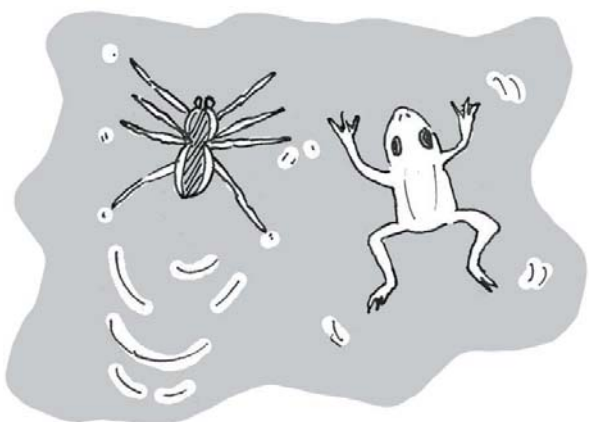
トキは今 歳の差超えて ヒナ育て

佐々木 勲

トンチボが カエル食べたら

トキに化け 叶わぬ 夢野郎

今井 千春



祭あと 虫もねぐらで すやすやと

菊池 浩子

生きもの みんな 日陰で ひとやすみ

吉良 裕紀夫

薬を 減らして 生きもの ニコニコだ

吉良 裕紀夫

農薬も 減らせばみんな 楽園だ

吉良 裕紀夫

夏すぎて もうすぐみのりの 秋がくる

吉良 裕紀夫

去年まで 減反の田が うれしそう

北条 和博

草刈りを やってもやっても 又草刈り

北條 和博

片辺にも はやく来い来い トキよ来い

北條 和博

水抜くぞ 早く足出し 山に行け

仲野 健司

水中生物に 水切りするから避難してと

教えてあげたらいいのにな

金子 裕子

生きものと 暮らす田んぼの のどかさよ

仲川 正則

音符たち 田んぼに楽譜 描いてる

大澤 清二

調査して やつと気づく 田のちから

大倉 哲夫

トキのため やったが結果は サギのため

藤井 春男

減農薬 タヌキにとつても やさしいネ

藤井 春男



水田に宿る命の大切さ

ドロのスジたどり着いたら 子ガメ君

和田 真二

昆虫たちの 命はぐくむ ドロンコ田たち

和田 真二

大雨も 一と安心の 田んぼダム

石塚 猛

田んぼは 生きものを育むお母さん

と呼んだ乙女は 今20才

北見 好信

この苦労 消費者さんは 知らんだろ

北見 好信

大空を飛ぶ トキを眺めて 幸を感じる

野田 敏一

生きものと 共に育てる 実りの秋

伊藤 裕美子

田廻りで 口ずさむ歌

カエルのオーケストラ

小林 三四吉

たれる稲穂右手に

しゃがむ足元 イナゴにくめず

小林 三四吉

今年もツバメの来客あり

害虫駆除をよろしくたのむ

高本 清

山ユリと 並んで育つ コシヒカリ

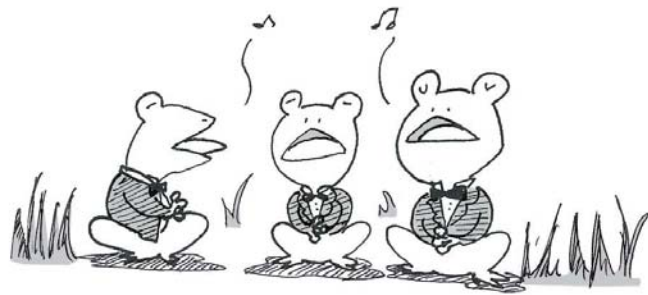
高木 清

5割減 我家の田んぼに トキが来る

田辺 恵一

生きものに 名刺求める 一度だけ

福田 高保



どっちが健康 田んぼの土と 我がからだ

菊池 浩子

田歩き カエル飛び込む

生もの田んぼ(字余り)

小川 佳奈子

よく見れば 田んぼの中は にぎやかだ

小杉 至

見回りに 田んぼに行くと くもの網

高柳 康久

生きものに 手を差しのべて 共に生く

末武 博

生きものに 名刺求める 一度だけ

福田 高保

ようこそ！ わが田んぼにも トキ飛来

(株) アクア・グリーン佐渡ヶ島



生きものや 観察終了まで

待つてくれっちゃ

馬川 哲雄

雨の日の 生きもの調査は やりにくい

藤井 春男

生きものを 救うし 殺すし 環境保全

信田 正志

米作り 損得得きに、妻は呟く 農捨てし夜

谷地田 武

どこかしこ 住みづらくなる この世かな

伊藤 昭司

呼びかけて 来てくれるのは 役員ばかり

何のための生もの調査か トキも呆れて高見の見物

長畝ふるさと会

「トキの野生復帰」

昭和56年の野生トキ5羽の一斉捕獲から27年、平成20年9月、佐渡の空にトキが再び飛び立ちました。

平成24年には放鳥したトキからヒナが誕生し、野生で36年ぶりのヒナ誕生となりました。

現在、毎年2回の放鳥と、野生で生まれたトキを合わせ、平成28年3月現在、佐渡島内には約150羽のトキが生息しています。



その4
生物多様性

生き物の 運命左右する 益と害

竜の業と 人間の生活

白杵 博道

こんにちは 目と目があつて おおあわて

白杵 博道

生きている 命のかぎり 生きてやる

白杵 博道

楽しみは 困難乗り切る 収穫日

白杵 博道

おれたちは ジオとジアスの 宝もの

白杵 博道

6月の 我田んぼに トキすがた

和泉 幸貴

生きものに 手を差しのべて 共に生く

末武 博

孫も感激 トキの足あと

斉藤 孝夫

暑さには 弱いとトキは 昼休み

斉藤 孝夫

トキよ来い えさはたっぷり

あるのになあ！

本間 武男

稲かきわけ タモ片手に 汗ぬぐう

本間 武男

ハシリグモ たまごを抱えて よーいドン

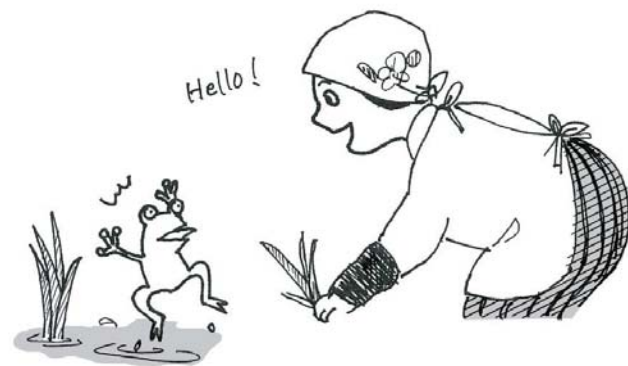
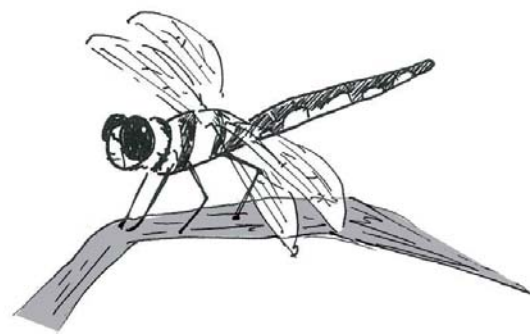
末武 昇弥

マツモムシ 背泳ぎでは 世界一

末武 昇弥

アキアカネ 早く実れと 飛んでいる

北条 和博



佐渡のトキ 気もちよく空に とんでいけ 奥田 莉央

生き物は トキに命を あたえてる 佐藤 耕一

トキとサギ 見分けつかない これどっち 渡辺 廣翔

田は大事 トキとみんなの 絆だよ

だから守ろう 大事な田んぼ
土屋 まりあ フラガ

いねめばえ おいしいごはんは 日本一 北川 遥人

佐渡が島 大空トキが 飛んでるよ 川上 麟太郎

トキのむら トキのかいせつ がんばるぞ 中川 敬太

森の中 トキが鳴きかう トキの島 下辺 礼心

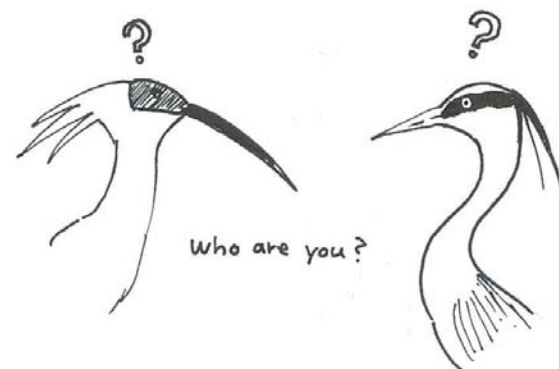
秋になり こがね色の田 目にうつる 川上 弓月

トキの声 身近できこえる トキの町 石川 流星

夏休み トキ解説を がんばった
資料集め 難しかった 池田 雪流

大空に トキがはばたき 美しい 伊藤 尚貴

佐渡にすむ トキはたいせつ 守ろうよ 佐々木 蒼太



東京大学

あの時の トキとの約束 果たすため

朝ぼらけ 以外に太い 鴉の声

東京の 庭見て思う 鴉恋し

トキ米で めざせマラソン 自己ベスト

海に落つ 夕日はほろ酔い おけさ柿

かりんとの 堅きに騒ぐ 野生の血

大佐渡に 長靴履いた 両生類

虫採りの あとの座学は 夢うつつ

篠原 直登

齊藤 友美

谷垣 翔太

瀧本 岳

瀧本 岳

瀧本 岳

瀧本 岳

瀧本 岳



佐渡をフィールドに体験学習

佐渡島をフィールドとして、島外学生の研究や実習、ボランティア活動なども多く行われています。

6月に田んぼ調査実習の為、佐渡へ来島した東京大学のみなさんが生きものの語り作品を送ってくれました。



新潟大学教育学部附属新潟小学校、佐渡自然体験学習の生きものの調査グループの児童から、生きものの語りのイラストを描いてもらいました。

当日は、トキ交流会館横の田んぼで草取り作業と生きものの調査を行い、見つけた生きものを観察している時に、上空を飛ぶトキを発見しました。



佐渡生きものの語り研究所では、佐渡の田んぼを中心とした環境学習の受け入れを行っています。詳しくは巻末のお問合せ先までご連絡下さい。

フォト部門 応募作品



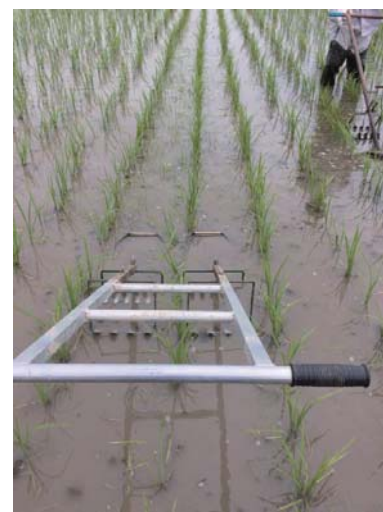
「佐渡の江の、きらびやかなる蜻蛉たち、
命をつなぐ場にぞ集え」

宮下 直 東京大学大学院 教授



「僕の出会いと僕の水田」

東京農業大学 学生



「私の目線」

東京農業大学 学生



「実学ということ」

東京農業大学 学生

イラスト部門 応募作品

新潟大学教育学部 附属新潟小学校

一ノ瀬 梨乃

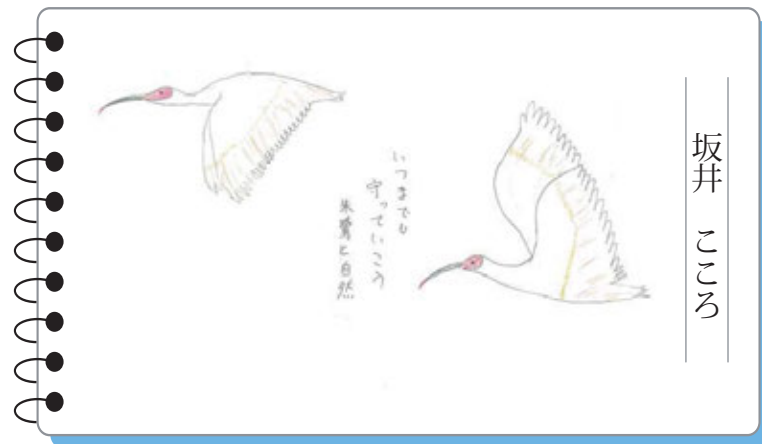
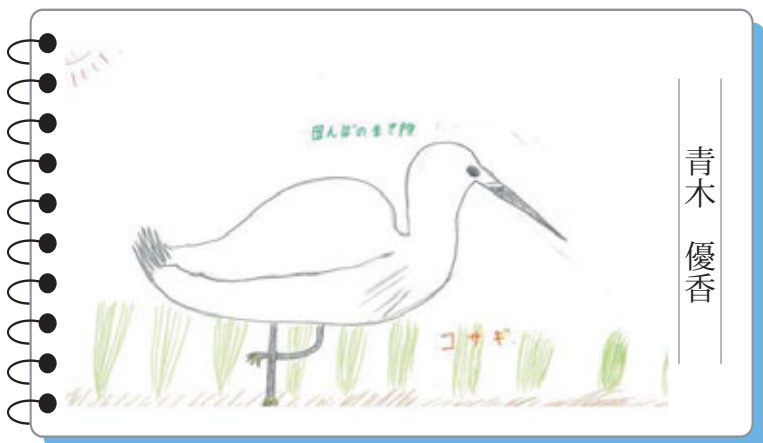


加藤 未奈



近藤 璃研



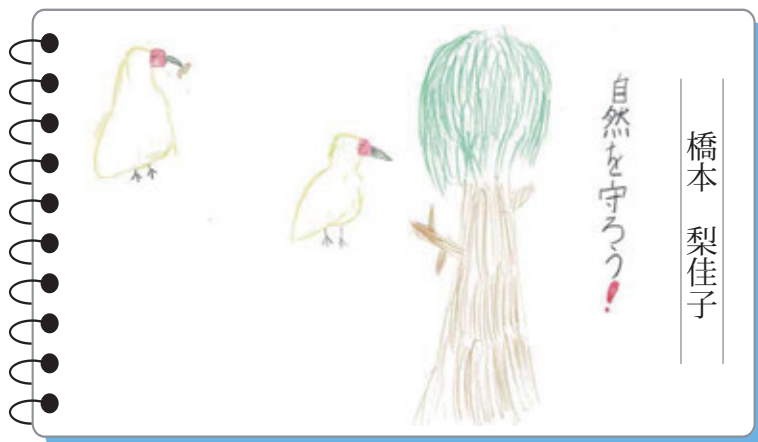




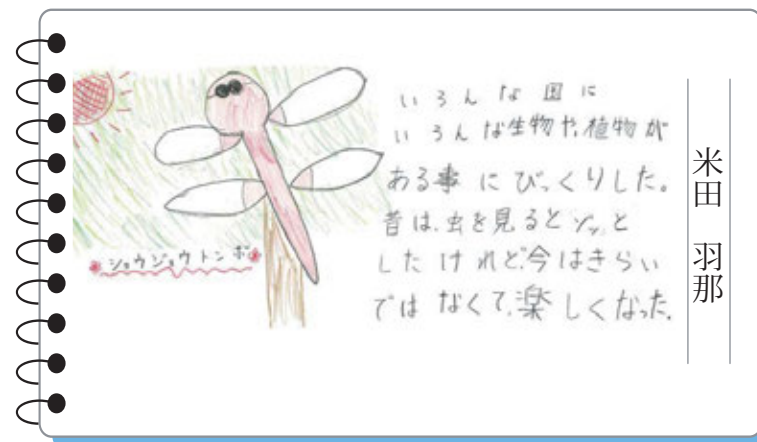
有本 築



渡辺 五葉音



橋本 梨佳子



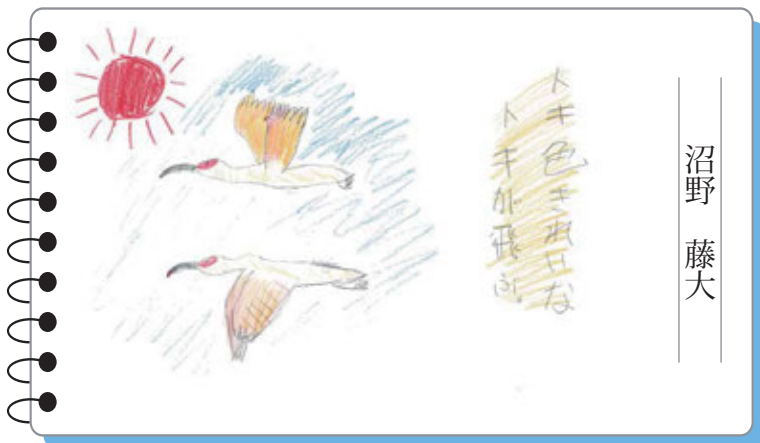
米田 羽那



五十嵐 郁人



白倉 大己



沼野 藤大



杉浦 広大



坂本 峻太郎



田村 雪香



柏樹 茜月



高松 和奏

井上 奈津美

大昔、お母さんがいなくなった。
佐渡、とちうとさうして
お母さんがいなくなった。



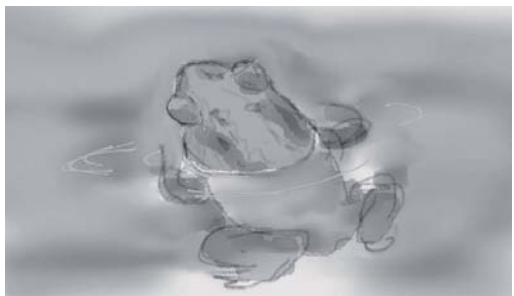
中島 一豪



山下 大志



藤田 剛(教員)



きみをみて安らぐ人が多いのは偶然ではない



地産地消フェスタ米売り体験

自分たちで作ったお米を、地産地消フェスタで販売しました。今年はいつもと違って、白米の他に玄米も販売しました。

お米を一袋5合ずつ入れるところからやりました。5合ずつ入れていくのは簡単そうだけど、途中で何合入れたかわからなくなつて、やり直しになったことが何度かありました。お米を入れる袋には自分で描いたイラストシールを貼りました。

袋の口をしぼるときは、きつくしめないとお米が出てきてしまうので、なるべくきつくしめるようにがんばりました。米袋の結び方は、とてもむずかしかったです。

お米の宣伝は、サンドイッチマンと、自分たちで書いたチラシ配りでおこないました。玄米も白米もすぐに完売したので、うれしかったです。



「佐渡 Kids 生きもの調査隊」は、佐渡島内の小学3年生から中学生を対象に、米づくりから米売りまでの一連を体験し、お米のことや生きもののこと、そして田んぼと生きものの繋がりについて学んでいます。

また、他地域の子供たちとの交流を通して、その土地の文化や田んぼ、生きものについて学び、地元である佐渡のことを考える活動を行っています。

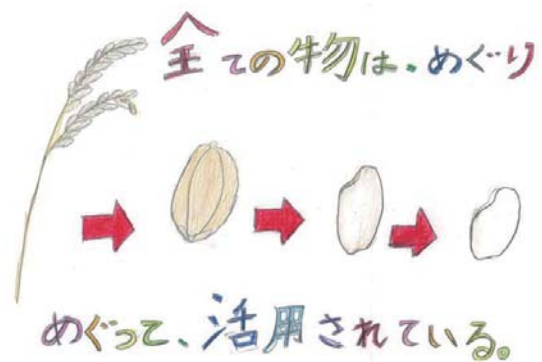


Facebook で活動公開中！



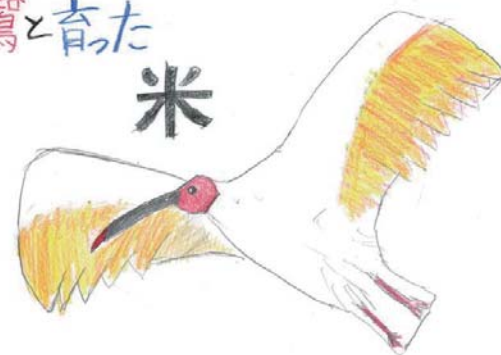
佐渡 Kids 生きもの調査隊

検索



宇治 奈緒

朱鷺と育った
米



大蔵 岳人



宇佐見 優奈



日比谷 建瑠

お米はおいしい。



奥田 更紗

好き嫌い
ワモのしほ田は
いい田んぼ



小林 幹

佐渡のお米はとってもおいしい!



須田 優心

CHISAKO



野尻 千咲子

トキも食べてるおいしいお米



お米おいしい たからしあわせ

宮川 優奈

トキと共に



育ったお米です。

三浦 理紗

かんばん、たよ!



市橋 知咲

田んぼ



宇佐見 真央



中川 晁汰



齋藤 啓太



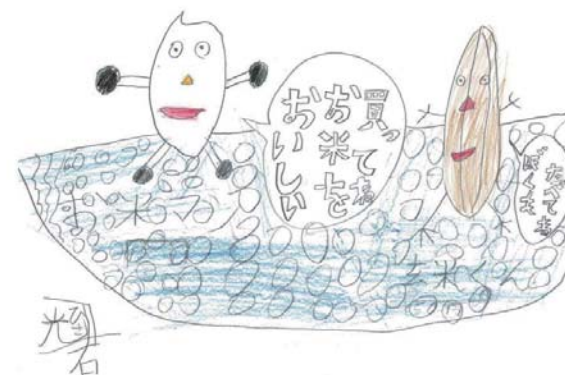
三浦 あい



佐藤 栞愛瑠



宇佐見 理沙



土屋 光壽

守る

生物多様性の損失を食い止め佐渡本来の生態系を回復する

私たちは生活の安全性や効率化のもとに様々な開発を進めてきました。結果、佐渡各地の自然環境に依存し生息していた在来の生物は住みかを失い、その個体数は減少してきています。今後、生物との共生を図る整備を進めなくてはなりません。

また、佐渡には本来生息・生育していなかった生物が持ち込まれ、佐渡固有の生物相と生態系に対する大きな脅威となっています。深刻化する前に、適切な対策を実施し、生物多様性の損失を食い止めなければいけません。

佐渡市の取組み

- 1・在来種の保全・保護
- 2・生態系に悪影響を及ぼす生物への対応強化
- 3・多様な生物が生息・生育できる環境の保全・再生

使う

生物多様性の恵みを持続的に享受する地域社会を構築する

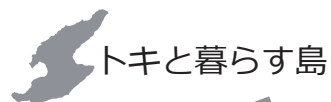
佐渡はG I H A S（世界農業遺産）に認定されました。佐渡の農村文化や伝統芸能、里地・里山の美しい自然景観を次世代へ継承していくためには、持続発展的な農業農村の活性化が最重要課題となっています。

佐渡で育まれる生物多様性の恵みを持続的に享受しながら、活力ある経済・社会活動を実施し、若者が定住・定着できる社会づくりを行っていくことが現代の私たちに求められています。

佐渡市の取組み

- 1・環境と経済が好循環する産業の育成
- 2・環境負荷の少ない循環型社会づくりの促進

佐渡市 「トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略」 平成24年6月発行より
詳しい内容は、佐渡市ホームページまたは冊子をご覧ください。



生物多様性佐渡戦略

【基本理念】 生物多様性が育む佐渡の豊かな自然と暮らしを保全・再生する

佐渡で暮らす私たちと、多くの生きものが共生する環境は、長きにわたり培われてきた豊かな自然、歴史、文化について市民一人ひとりが「知る・守る・使う」ことによって、保全・再生されるものです。

この「知る・守る・使う」に対応した3つの基本目標を設定し、積極的に推進する施策を定めています。

知る

佐渡の生物多様性豊かな環境を市民一人ひとりが理解する

私たちの健康で豊かな生活は、自然から多くの恩恵を受けている事を自覚することが大切です。将来に渡って佐渡の生物多様性豊かな環境を保全・再生していくためには、まず、私たち一人ひとりが佐渡の環境について十分理解し、後生に渡って継承していくことが必要です。

佐渡市の取組み

- 1・生物多様性に対する市民理解の促進
- 2・組織・団体間のネットワークの構築
- 3・企業CSR活動の参画促進
- 4・大学等との連携による人材育成の促進



さあ、これからあなたも外に出て、自分の生きもの語りを作ってみませんか。

理事長 仲川 純子

トキを見ていると普段気が付かないことに気づかされることがあります。例えば「やっぱり生きる基本は食べ物」ということ。あたりまえのことですが、でも、食べ物や飲み物が24時間いつでも手に入る暮らしをしている現代人は、美味しければいいとかおなか一杯になればいいと、食べたものが生命を維持し、体を作っているというあたりまえのことを忘れていたのではないのでしょうか。また、食べるという事は生きものの繋がりも作っています。

発行日 2016年3月 発行
発行 朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会
編集 一般社団法人 佐渡生きもの語り研究所
挿絵 小川 佳奈子 (佐渡地域おこし協力隊)
佐渡市「トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略」より
印刷・製本 新穂印刷
お問合せ先 〒952-0103 新潟県佐渡市新穂潟上1101-1 トキ交流会館2F
TEL/FAX 0259-22-2658 <http://sado-ikimonoken.jp/>
E-mail : ikimon@sado-ikimonoken.jp